

『教育学研究集録』第1集～第27集 総目次

第1集（1978年）

松島 鈴

発刊にあたって

石戸谷 哲夫

教員史研究の覚え書

中村 弘行

シュライエルマッハーの学校論—市民学校を中心に—

米沢 正雄

デューイにおける社会についての課題意識と学校論との関係—ハル・ハウス解釈にもとづいた学校論の構想—

山岸 雅夫

ペスタロッチの民衆教育論とドイツの産業学校運動（2）

永井 聖二

教員社会化研究の現状と課題

清水 一彦

アメリカ合衆国における宗派学校への公費援助の問題

神田 伸生

J. ピアジェの「発達」研究の教育方法論的意味（1）—解釈基準設定の問題—

山根 栄次

社会認識教育における社会機能法の役割—社会科における社会機能法批判の再検討—

第2集（1979年）

吉本 市

ハードな領域とソフトな領域

長島 啓記

Th. リットの陶冶論—「フマニテート」理想の批判と「ザッへの論理」—

坂本 保富

象山における儒学理解への前提と特質—幕末期における儒学的洋学受容論成立への主体形成—

森 透

民権派教師の教育論に関する一考察—松本獎匯社の場合—

上野 耕三郎

英國1860年代工場法教育条項の基礎的分析—児童雇用委員会報告書を中心にして—

別府 愛

マーガレット・マクミランの教育実践—キャンプスクール・保育学校の実践を中心に—

馬居 政幸

「知識の社会学」としての「教育社会学」のために（1）—予備的考察—

手打 明敏

近代日本農村社会教育史研究（1）—埼玉県・豊岡大学と設立者・繁田武平—

西口 加代

PTA会員意識の分析—調査データを中心に—

Abdul Rauf Achmad

Equality of Educational Opportunity in Japan

布施 徹

米国における養育の機会均等に関する考察—1960年代以降を中心として—

奥井 明子

ソビエトにおける養育の史的展開に関する一考察その3—<就学前の行進>を中心にして—

平沢 茂

アメリカ合衆国におけるメディア・プログラムの成立過程に関する研究

矢沢 雅

1950年代のコア・カリキュラム—青少年欲求法を中心として—

高柳 英雄

カリフォルニア州に於ける“新社会科”形成過程の研究—State Central Committee on Social Studies(1954-1961)を中心に—

鶴岡 義彦

'Scientific Literacy'について—米国科学教育の動向に関する一考察—

大高 泉

新人文主義期における自然科学の陶冶価値認識の構造について

—歴史的社会的事象としての科学教育の解明のための「科学観と科学教育との関係」—

根本 博

数概念の発達と Dewey の 'systematic knowledge'について

第3集（1980年）

高久 清吉

理論のある実践

米澤 正雄

ジェーン・アダムズのセツルメント事業に対するデューイの評価—「ソーシャル・センター」としての学校論における教師論的視点の欠落—

大戸 安弘

中世常陸国信太莊における遊行者の教育活動

大武 茂樹

ケルシエンシュタイナーの職業学校改革とドイツ第二帝政期におけるその役割—補習学校の改革を中心に—

趙 鐘仁

イギリス中等教育における教育機会の保障の一考察

—1920年「奨学金と無償席に関する委員会報告書」を中心に—

大坂 治

大戦間フランスにおける統一学校研究論序説—統一学校の理念の検討を中心に(1)—

窪田 真二

イギリスにおける親の学校選択権に関する研究—F. Bourne 卿の提案を手がかりとして—

清水 一彦

アメリカの Middle School に関する研究—Articulation の問題を中心にして—

田辺 俊治

<親の懲戒権>に関する一考察(その1)—戦前の家族法における<懲戒権>の位置づけと意義を中心として—
天笠 茂

学校組織改新における研修行政の役割に関する研究—情報提供機能を中心に—

石井 仁

エリクソンのアイデンティティ論の検討

小笠原 喜康

B. O. Smith の「実践判断力」育成論—「規範的教授単元」の考察を通じて—

小林 恵

19世紀末葉における米国カリキュラム改革運動の一断面

—「初等教育に関する15人委員会」のカリキュラム研究—

滝沢 利直

J. デューイにおける道徳論の一考察—教育内容にかかる視点から—

松嶋 光保

総督治下朝鮮普通学校における歴史教育—1910年代のその「埋没」と「浮上」—

山根 栄次

社会科における社会機能法の概念と方法—初期社会科における社会機能法の検討を通して—

小谷 悠紀子

外国語習得過程における言語の変容

堀 哲夫

米国における化学教育改革の史的考察—CBA, CHEMS の検討を手がかりとして—

第4集（1981年）

宇留田 敬一

学校行事の実践報告をめぐる研究者の覚書

中村 弘行

「個人的無政府主義」の形成過程—久津見蕨村の「教育」観—

福島 幸雄

J. F. ヘルバートの教育的教授論についての研究（そのII）

小川 澄江

中村正直の教育思想—中村正直における習慣形式の問題—

梶村 光郎

鈴木道太における「生活学校」実践—生活綴方教育の発展として—

森 透

茨城県における民権派の教育論—教育政策批判を中心に—

古橋 和夫

ウイリアム・ラヴェットの教育思想—チャーティズムの目的と教育改革との関連—

飯田 浩之

教育可能性（educability）の社会言語学的諸相に関する予備的考察

石川 辰彦

現代青年論の再検討—新たな枠組形成のために—

布施 徹

社会階級と言語—教育の機会均等に関連して(1)—

石井 仁

モンテッソーリの発達観

神田 伸生

教材解釈の視点—詩教材解釈を通して—

佐藤 善一

構造形成過程の実験的研究—Z. P. ディーンズを中心に—

矢沢 雅

米国1950年代におけるコア・カリキュラム論に関する一考察—N.L.ボッシングの理論を中心として—

江口 勇治

アメリカ合衆国における社会科論の展開（2）—C. A. Beard の歴史教育論について—

根本 博

'Systematic Knowledge'について—問題解決と理解—

藤田 静作

西ドイツにおける「統合理科カリキュラム」の構想と実践—その類型と実践形態を中心として—

第5集（1982年）

朝倉 隆太郎

茨城県における教員異動圈

岡本 明人

西ドイツにおける教育科学論争に関する一考察—W.クラフキーの「教育科学的行動研究」を中心に—

長島 啓記

Th. リットにおける教育学思考と教育学の学問的性格—論文「教育学思考の方法論」の吟味を通して—

羽根田 秀実

ペスタロッチの自然観について—『探究』を手がかりにして—

大戸 安弘

時衆二祖真教の教育活動—武士宛書簡の分析を中心に—

喜名 信之

ジャンセニスムの教育論—理性主義的教育論の形成—

山岸 雅夫

ペスタロッチの直観教育論—教育方法研究序説—（1）

窪田 真二

イギリスにおける中等学校への transfer system をめぐる政策動向の検討—親の学校選択の視点から—

篠原 清昭

教育委員会規則制定過程に関する法社会学的考察

浦崎 源次

D.P. Ausubel の学習理論の教授学的検討（1）—意味的受容学習の意義—

大友 秀明

現代西ドイツの政治教育に関する一考察

森茂 岳雄

アメリカにおける文化的多元主義と社会科教育

島田 和昭

数学教育における視覚的補助の一考察—図的表記を中心として—

第6集（1983年）

古藤 恵

幾何教育の問題点とその改善

岩間 秀幸

ソクラテスにおける「徳」と「知」—「知」の構造化を手がかりとして—

小川 澄江

中村正直の幼稚園教育観—中村正直におけるアドルフ＝ドゥアイの幼稚園教育観の受容—

梶村 光郎

戦前生活綴方運動に於ける綴方雑誌の主導性—発行文集の「最盛期」を中心に—

河原 国男

篤胤学における主体形成の方法認識に関する一考察

—模倣の規範的思惟としての「神習ふ」の理念をめぐって—

佐藤 淳介

明治前期の礼儀作法教育—石川県におけるその導入過程—

北沢 豪

学校における秩序と統制—質的データの解釈を中心に—

水谷 修

修養論の構造—日露戦争後から第二次大戦までを中心に—

北神 正行

戦後教員身分保障制度の形成に関する一考察—「労働協約」締結の意味と内容—

土屋 文明

ヴァーゲンシャインの教授論—「アンラサネマ」をめざす科学教育の提案—

小川 雅子

作文教育における主題の検討

藤田 正春

外国语教育における基本語彙論—英語教育と日本語教育を中心として—

奥 招

今日の数学教育と数理論—Mathematization と数理化の考え方を中心として—

島田 和昭

数学教育における視覚的補助の一考察 (II) —図的表現と image 化—

間瀬 花子

数学教育における問題解決の指導—Real World と数学—

第7集 (1983年)

能田 伸彦

学校数学における子どもの理解を促す指導に関する問題点

滝沢 和彦

W.T.ハリスの教育思想—「社会的全体としての人間」觀と「魂の5つの窓」論を中心に—

洪 顯吉

R. S. ピーターズの道徳教育論に関する一考察

太郎良 信

生活綴方教育史研究における「生活綴方」規定の検討—中内敏夫『生活綴方成立史研究』の批判的検討—

M. Mehdi Ahmadyar

The Development of Miscellaneous Schools and It's Social Function in Japan

清矢 良崇

学習の過程としての会話—エストメソドロジーと社会化研究—

木岡 一明

アメリカ現代教育行政学における評価論の批判的検討（I）—〈評価・政治〉関係論の視座—
水本 徳明

現代学校論の課題と方法—記号論的視点からの考察—

上嶋 洋一

Rogers 派カウンセリングの基本的理念—生活指導における共感的理解再検討のための予備的考察—
吉田 武男

シュタイナーの教育方法論における情意への働きかけの理念と実際的方法
安井 一郎

J. I. Goodlad の Humanistic Curriculum 論に関する一考察

小川 雅子

詩的表現に関する評価論—導入段階の評価について—

香西 秀信

議論の型とその分析—古典修辞学の技法を応用して—

奥 招

塩野直道の数学教育論の形成過程と成立についての一考察

清水 克彦

児童の認知発達にもとづく数学的概念の指導に関する研究—構造化を焦点に—

第8集（1984年）

井上 治郎

コールバーグの道徳教育理論の展開—同業者の立場からの批判的検討—

スパーク・スハルトノ

「教育勧語」における忠孝思想の研究—日本のナショナリズム形成に果たした役割を中心に—

尹 秀一

シンガポールにおける言語教育政策の展開

上嶋 洋一

Gendlin, E. T. の「体験過程 (experiencing)」論—パーソナリティ変容における「体験的応答 (experiential response)」の役割—

林 若子

保育問題研究会（戦前）における「生活訓練」

渡邊 雅美

「子どもの文化」としてのことば遊びの教育的機能—なぞなぞ遊びの分析—

飯島 康之

数学教育における幾何の位置に関する一考察

第9集（1985年）

高野 恒雄

理科学習におけるモデル形成に対する観察の寄与

清矢 良崇

方法としての社会化—解釈的パラダイムと方法論（I）—

Chantana Chanbanchong

A Comparative Study of the Compulsory Educational Systems of Japan and Thailand (With Emphasis on the

National Policies)

野津 隆志

識字教育政策に関する比較研究のための基礎的検討

阿久津 浩

学校の組織分析に関する一考察—コンティンジェンシー理論を中心に—

末武 康弘

クライエント中心療法理論の発展におけるジェンドリンの役割

中井 孝章

「自己教育能力」の形成をめざす教育研究の現象学

松岡 尚敏

中国「文化大革命」期における学校教育改革—教育と地域との結合の一事例として—

松本 敏

社会科における地域観の総括と課題—近年の地域学習論の比較をとおして—

関口 靖広

数学教育における数学的活動の研究—Fallibilism の立場からの考察—

藤井 齊亮

数学教育における「理解」についての一考察

藤田 剛志

理科教育内容の構成に関する一考察—オーズベルの有意味学習理論を手掛りにして—

吉岡 亮衛

有向階層化法による理科の授業前後における「空間概念」の連想構造の変容の評価

第10集（1986年）

横山 十四男

大原幽学の切腹

砂原 由和

実存する他者と、技術の対象としての他者—M. ハイデッガーの存在論を手掛かりとして—

太郎良 信

文園社争議の研究—戦前生活綴方教育史研究—

前田 寿紀

「遠江国報徳社」の教育活動の実態—「(中央) 報徳会」成立以前を中心に—

猿田 真嗣

自治体文化行政における成人教育像の可能性—「教育」「学習」概念の問題性の検討を通して—

西山 薫

〈きまり〉制度の構造とその問題に関する検討—〈きまり〉制度の「正当化知識」への接近—

浜田 博文

アメリカの Teacher Center における「協同 (collaboration)」の実態—フロリダ州の事例を中心に—

阪尾 隆司

P. H. フェニックスの教育課程論の再検討—M. ポラニーの「暗黙知」(tacit knowing)論を媒介にして—

徳岡 肇一

イギリスのジュニア・スクールにおける informal education の動向に関する一考察

宮蘭 衛

W. H. バーストンの歴史教育論に関する一考察—歴史の本質と歴史教育の意義について—

高木 まさき

文学教育のための作品分析試論

柳沢 浩哉

タグミック・インベンションにおける具体的手順—その変容過程からの検討—

杜 威

学校数学における代数の指導に関する一考察—文字式の計算における子供の操作モデルを中心として—

第11集（1987年）

松島 鈞

コンドルセの「教育の必要性について」に関する若干の考察

阿部 耕也

デカルト的方法の系譜—『方法序説』からエスノメソドロジーにいたる—

藤井 穂高

19世紀フランスにおける幼児教育制度の基本的性格と変容—制度的要素の分析を中心に—

李 聰韓

行動技法の組織的適用による幼児の社会・情緒的、学業的行動の改善

木村 勝彦

「西多摩プラン」における社会科教育論の考察—今井眞次郎の社会科教育論の視点から—

藤井 千春

「問題解決学習」についての一考察

—社会性の「発達課題」の観点からの「昭和26年版小学校学習指導要領社会科編」の分析を通じて—
宮薗 衛

上原尊祿による世界史像形成への出発—1940年代後半における「世界史」への取り組み—

安 直哉

対話に関する国語教育論的考察—話しことば教育理論研究—

熊谷 光一

共有プロセスをもとにした数学の授業についての考察

第12集（1988年）

梶 哲夫

私の社会科教育に関する研究

大谷 瑞

「北海道開拓」と小学校教員に求められる役割についての考察

Cecilia M. Basabas

The Role and Institutional Features of Barrio High Schools (BHS) in the Philippines

陳 永明

中国における師範教育の現状と課題

柳澤 良明

西ドイツにおける学校経営参加の理念と制度に関する研究

—ノルトラン・ヴェストファーレン州の「学校参加法」を事例として—

阿部 正行

教育の過程と内容に関する一考察

—A. N. Whitehead の抱握理論 (The Theory of Prehension) を手がかりとして—

木村 健一郎

牧口常三郎における統合教授論の成立過程—「関係」概念を軸に考察して—

上谷 順三郎

西ドイツ文学教育の動向をめぐっての一考察—受容理論と文学教育の接点を中心に—

戸田 功

「言語記号の恣意性」の批判的検討—言語教育学の方法的基礎を求めて—

大谷 実

数学的活動にもとづく教授・学習に関する研究—新理論構築型に焦点をあてて—

清水 美憲

数学的問題解決におけるメタ認知に関する一考察—「問題の変容」を視点とした分析—

片平 克弘

児童・生徒の粒子概念の形成に関する研究

第13集（1989年）

永岡 順

教育課程経営改善の視点と課題—学校経営概念検討への一試論—

諸富 祥彦

「<エゴイズム>克服の教育論」の構想—<エゴイズム>の構造の検討を中心に—

和田 ふゆ子

生涯教育・学習のカリキュラム編成と規定要因—公民館の事例分析を踏まえて—

鄭 美羅

韓国「国民学校教育課程」にみられる人間像の変遷（1）—1945年から1980年まで—

宮崎 孝治

英国障害児教育の対象規定に関する研究—1914年教育法の「知的遅滞」を中心として—

池田 賢一

フランスにおける移民子弟教育政策の展開

谷田 勇人

J. デューイの個性化の過程に関する一考察

揚 玉珍

中國と日本の母親の育児の特徴とその文化的背景

伊藤 圭子

数学の学習における「形式」—はたらきに焦点をあてて—

布川 和彦

数学的問題解決におけるストラテジーの役割

韓 仁玉

韓日における中学校科学教育の比較—科学教育課程の現代化を中心として—

第14集（1990年）

辻 功

調査と自己形成（1）

真野 宮雄

教育制度論から生涯学習体系論へ

三輪 残郎

米国の数学教育改革と NCTM 「カリキュラムと評価のスタンダード」

山口 文子

F. フレーベルの『母の歌と愛撫の歌』にみられる教育思想

藤田 真之

アメリカ合衆国におけるハイスクールカウンセラー制度の現状と課題—「キャリア開発教育」の視点から—

山田 雅彦

教育の場における学習者理解に関する一考察—マックス・ウェーバーの「解明的理解」を手がかりとして—

徐 敏民

中国における日本語教育に関する一考察—初級段階の教授法を中心に—

新井 孝喜

明治後期東京高師附小における直観原理による特設教科の歴史的展開

溜池 善裕

社会政策としての柳田國男「農民教育論」—横井時敬の「農民教育論」との対比で—

塙原 成夫

高等学校数学教育におけるストラテジーについての基礎的考察

第15集（1991年）

小野 慶太郎

統・生活の場の教材化の過程

高野 恒雄

棚橋源太郎の理科教授と今日の理科教育

貝塚 茂樹

占領初期における「公民教育構想」の変容と「社会科」成立をめぐる一考察—道徳教育史研究の視点から—

相馬 伸一

The Pacificistic Impact on the Educational Thought in the Hartlib Circle

角替 由弥子

1980年代のイギリスにおける継続教育カレッジの再編成とコースの多様化

野村 佐和子

市町村レベルの生涯学習援助システム・モデルの研究

—ファジィシステム・アプローチによる一般モデルの構築—

周 飛帆

中国帰国生徒の異文化適応に関する一考察

金 世坤

学習障害児の指導に対する行動的アプローチの展望

田村 真広

1920, 30年代の東京市における公民教育論—東京市政調査会の活動を中心として—

浅田 孝紀

五十嵐力における作文指導の実際—添削例の検討を通して—

入部 明子

プロセス・アプローチにおける構想指導—マップによる思考の整理—

江森 英世

数学学習における概念の伝達に関する一考察

丹沢 哲郎

BSCSにおける人間の遺伝学教育の展開とSTSアプローチ

第16集（1992年）

遠藤 昭彦

道徳教育研究序説—人間生存の必要としての道徳及び道徳教育の人間学的基礎づけ—
鈴木 博雄

近世藩校史研究序説（その1）

山田 雅彦

習慣形成の過程における理解の構造—教育課程の社会的基底の探究—

熊谷 真子

ロシア連邦における学校運営の変容—父母参加の拡大から父母の教育権の制度化へ—
樋口 直宏

批判的思考を育成するための教師の「問い合わせ」の特質

川崎 誠司

J. A. Banks の多民族教育論に関する一考察—民族文化的な内容を中心に—

白 南権

教育メディア研究の動向と今後の課題

渡部 洋一郎

蘆田恵之助の綴方教授における理論と方法の実際—随意選題形成過程の分析を通して—
保坂 秀夫

社会科教育における「法的思考」の役割について

—J.P.シェーバーの「公的問題アプローチ」の批判的検討を通して—
原 義彦

経営診断的アプローチによる公民館研究の方法

池田 充裕

シンガポールにおける青少年の国民意識に関する実証的研究—言語使用能力との関係性をめぐって—
渋谷 恵

タイ山地民社会における学校教育の導入と文化変容

第17集（1993年）

高森 邦明

千葉春雄の文集批判

篠原 昭雄

中等社会科の存在理由

西山 亨

教育行政組織における成績主義—教職員人事管理の合理化・能率化を巡って—

南 景照

社会科における消費者教育の展開の一観点—「消費者主権」に基づいた消費者意思決定を中心に—
神山 知子

初任者研修における新任教員のアンビバランスに関する考察—感想文にみる参加意欲を手がかりに—
見世 千賀子

多文化主義政策の確立と多文化教育の展開—オーストラリア連邦政府の選択—

牛尾 直行

独立前インドにおける大衆教育に関する一考察—不可触民および部族民子弟の教育機会に着目して—
中村 健一郎

大正期の「茨城教育」にみる教師の教育課題認識—父母と児童の問題を中心に—

唐木 清志

アメリカ社会科における「参加」の学習の意義—E.M.ニューマンの「参加」プログラムを手がかりに—
石田 貴子

ジョン・デューイにおける「コミュニティ・スクール」論の展開

李 錫九

子供の道徳判断に関する一考察—「言語ゲーム」論を中心に—

プラサード・セートゥンガ

日本のスリランカに対する教育援助の現状と問題点

松尾 七重

図形の概念形成過程の状態を特定する枠組みの有効性についての一考察

第18集（1994年）

湊 吉正

国語教育学の言語論的基礎づけに関する一試論—筆者のアプローチの歩みをふりかえって—

高木 誠一

超高齢社会における地域社会の役割に関する一考察—地域の保健・医療・福祉の連携をめぐって—

杉浦 兼

余暇文化研究の新しい視点と課題—日本におけるヨハン・ホイジンガ研究の検討をふまえて—

島田 茂樹

行動分析的アプローチによる発達障害児の社会技能の教授に関する研究の展望

紫 容子

ドイツの総合制学校における社会的統合の理念の展開

今村 哲史

科学教育における生徒の意思決定の指導方法—意思決定支援活動及び支援ツールの活用を通して—

藤澤 健一

沖縄における師範教育制度の「植民地教育」的性格—教員構成の分析を中心に—

高橋 利行

最適な生涯学習情報提供ネットワークの理論的検討

助川 晃洋

ヘルマン・ノールにおける「教育的関係」の独自性

井門 正美

異文化理解教育におけるクロスカルチャー・シミュレーション“BaFa BaFa”的意義

浮田 真弓

昔話の教材としての特質—「語り」の有効性—

第19集（1995年）

長谷川 栄

教授学の対象と方法

高倉 翔

「併設」「新制」中学校卒業生の証言

スネート・カンピラバーブ

日本の留学前指導・計画の現状とその問題点—タイ人留学生に対する日米比較調査を基にして—
鈴木 康郎

タイにおける華人系学校の歴史的変遷—国民統合政策との関連を中心として—
角替 弘規

英国高等教育財政改革と大学への影響

鄭 栄 根

1970年代における“School Based Curriculum Development”的成立背景

銀島 文

数感覚の記述枠組みによる事例の分析

桐谷 正信

「新しい社会史」論に基づく歴史認識の意義—Project on Social History Curriculum の分析を手がかりに—
李 明 實

日本統治期朝鮮総督府の初等教育政策に関する—考察—1930年前後の書堂政策を中心として—
岸田 由美

在日韓国・朝鮮人民族学級の変遷—在日韓国・朝鮮人のエスニシティと教育—
大井 美穂

J. デューイの道徳性のとらえ方の独自性

—初期の倫理学の諸著作に見られる善悪観と自己実現観に着目して—

李 明 熙

R.G.コリングウッド歴史哲学における「生きた過去」論の歴史学習方法上の意義
—現在から過去を認識する歴史学習論の提起—

足立 幸子

滑川道夫の読書指導論—読書における「創造性」について—

山田 千明

日本の学校における異文化接觸—帰国生徒受け入れの人間関係を通して—
田口 康明

1960年代のヘッセン州における教育改革とドイツ社会民主党の教育政策

原 義彦

公民館の経営診断技法における最尤法の意義—公民館の現状分析から—

第20集（1996年）

佐藤 三郎

学問研究とは何であるのか—プラトンとアリストテレスの努力と意外な結末—

朴 聖雨

教育学研究における前提的課題—「学問論」の定立と「理論形成」を中心に—

下村 哲夫

教師の「信用」に関する実証的考察—千葉県立高校教諭停職処分事件鑑定意見書—

飯田 範子

石澤吉磨における〈科学的〉家事教育論の展開

石井 久雄

青少年研究における「限定的意味領域」概念の可能性—A. シュツツの現象学的社会学構想を手がかりに—

I.マイトリー

Emotions in Mathematical Problem Solving —Focusing on Mathematics Anxiety—

岡部 善平

選択制カリキュラムに対する高校生の意味付与に関する研究—「時間的展望」の視点からの理論的検討—

岸本 忠之

小数の乗法の学習モデル

鈴木 哲也

理科教育における生命尊重論に関する基礎的研究

高橋 等

数学的知識の比喩に関する—考察—数学的知識の比喩とは何か—

高橋 佳子

J. デューイの意味生成論

手嶋 将博

マレーシア初等教育段階における環境教育の理念と実際—合科科目「環境と人間」の分析を中心として—

外池 智

文部省による郷土教育関係施策の目的と展開—1932-37年における施策の分析を通して—

林 尚示

戦後教育改革期のコア・カリキュラムに関する研究—千葉県北条プランの成立背景と構造変遷を中心として—

広瀬 義徳

外国人教育公務員の任用問題と在日朝鮮人の市民権—高度経済成長期以降における経済的、社会的背景に焦点をあてて—

迎 勝彦

関連性に着目した対話教育研究の視点

谷塚 光典

科学教育における概念変換モデルに関する理論的研究—概念変換教授方略の相互比較に基づいて—

第21集（1997年）

齊藤 太郎

昭和前期郷土教育における郷土人認識—茨城県師範学校他『総合郷土研究』(1939) の県民性論覚え書き—

白石 晃一

19世紀イギリスにおける国民教育とヴォランタリズム

李 英淑

小集団における数学的問題解決に関する—考察—協働的相互作用を中心に—

臼井 智美

学校組織における民族学級の位置づけに関する—考察

—民族講師の制度的身分保障に至る歴史的経緯の分析を通して—

金田 健司

E. クリークの比較教育科学における「共同体」と「陶冶」

金 在明

語彙習得の観点からの英語テキストに関する研究

—状況学習論を援用したテキストのオーセンティシティを中心に—

小林 一貴

文章表現における語彙的結束性

白木 賢信

青少年の野外教育における生活技術習得研究序説

鈴木 樹

高等学校における自己探究型総合学習の内容構成と方法に関する一考察

—学習者の経験の総合化を図る二つの事例を中心に—

Chaijaroen Sumalee

The Relationships between Preconceptions and Mental Models

鄭 恵允

テキストと談話における「断わり表現」の比較分析

中嶋 香織里

「言語変異」にもとづく言語の多様性の認識

—Language Awareness アプローチにおける言語の自覚化プロセス—

中山 あおい

ドイツにおける異文化間教育—外国人教育から異文化間教育へ—

根津 朋実

「目標にとらわれない評価」(goal-free evaluation)の再検討—カリキュラム研究における意義とその必要性—

野口 昌彦

問題解決的視点による学習相談の検討

吉田 誠

ディルタイの道徳教育論における個人と全体の関係

渡辺 恵

国際協力活動の実際からみる人材の資質要件の検討

第22集（1998年）

天野 正治

ドイツにおける異文化間教育と学校の開放—ノルトライン・ヴェストファーレン州の事例から—

佐々木 俊介

統・新旧 How We Think の比較考察—質的思考理論から見た—

李 貞美

学年会における組織文化に関する考察—修学旅行に関する意思形成過程を事例として—

熊田 祐介

明治中・後期における歴史教育実践の地域的展開—開智学校を具体的な事例として—

小久保 美子

柳田國男の国語教育論における国語観

佐藤 公

東京高等師範学校附属中学校における「世界史構想」の研究—齋藤斐章による「実践」を事例として—

高橋 利行

生涯学習支援情報ネットワーク構築に関する一考察

チエ・ウンギョン

理科教育の内容選択における社会的影響の諸要因に関する研究

—韓国小学校「自然」の「火山と地震」の内容を事例に—

Hla Hla Win

Review on the Curriculum Development of Geography Education in Myanmar

林 明煌

台湾の高等学校における日本語教育の日本語カリキュラム開発に関する研究

—NBCD (Needs-Based Curriculum Development) によるニーズ分析を中心に—

第23集（1999年）

桑原 敏明

生涯学習体系の人類史素描

石井 久雄

青少年研究におけるメディア論的視角の検討と課題

山口 留子

現代フランス教育改革における「教育共同体」概念導入の論理

鎌田 亮一

タイ国山地民ポー・カレンにおける文字教育の取り組み—その課題と可能性—

権田 恵子

地方教育行政の独立性原理に関する考察—行政委員会としての教育委員会の今日的妥当性をめぐって—

金 琢淑

カリキュラム研究から見た「異文化間リテラシー」の概念に関する—考察—その有効性と問題点を中心に—

齋藤 亨子

日本語教育における「異文化間コミュニケーション能力」

森田 真吾

明治期文法教育における「規範文法」形成過程

松崎 康弘

三澤勝衛における「総合体」概念と地理教育論

Cho Cho Myint

A Trend of Economics Curriculum at Basic Education High School Level in Myanmar: With the Reflection of Its Political, Economic and Social Circumstances

小原 豊

乗法概念の初期指導に関する基礎的研究—認識論的な分析を中心として—

鈴木 哲也

理科教師の「生命尊重」の意味内容の解明

第24集（2000年）

山本 恒夫

事象としての生涯学習

山口 满

「フレッヅェルのテーゼ」の今日的意義

川合 治男

情報教育の教師研修の諸問題

能田 伸彦

日本の教室におけるオープンアプローチによる算数数学の学習指導

古川 明子

ヘンリー・ディヴィッド・ソローの教育思想—<学校教育>から<生涯学習>へ—

山田 賢司

教育社会学における選抜・配分理論の再検討—日本の雇用形態の変化と高等教育の対応に焦点を当てて—
渡辺 恵

「学習環境」としてみた日本の国際協力市民組織(NGO) —その人材育成機能の解明のために—
荒川 麻里

ドイツにおける子どもの自立性への親の配慮に関する法的考察

吉田 武大

我が国の大学における「導入教育」についての一考察—実施に至る経緯と現状を中心に—
中田 有紀

インドネシアにおける学校教育普及の特質—公開中学校(SLTP Terbuka)を中心として—
李 埼承

ハイパー・メディア教材による生徒の認知的変容に関する研究—歴史教材を事例として—
若生 剛

昭和初期公民科教育の普及活動—帝国公民教育協会と公民教育研究所の活動に焦点を当てて—
磯山 恒子

アメリカの法教育におけるカリキュラム構成に関する研究—法の社会的機能の類型を手がかりとして—
長田 友紀

アメリカにおける「機能的コミュニケーション論」の成立
—「スピーチ・コミュニケーション能力に関する全米プロジェクト」を中心に—

小原 豊

オペレーションセンスの分析枠組みに関する考察

藤苗 直道

昭和20年代の中学校数学科における単元学習の導入に関する一考察
—GHQ/SCAP文書にみる「経験的単元」の提案に焦点をあてて—

第25集（2001年）

李 福松

俞吉瀬の日本留学に関する一考察—朝鮮開化派と福沢諭吉の関係を中心として—
渡辺 恵

国際協力市民組織(NGO)における人材育成に関する事例研究
—NGOスタディ・ツアー参加者の学習プロセスの分析—

安藤 耕己

「集落青年会」の実相とその意味—戦後青年集団史研究の課題およびライフ・ヒストリー法の可能性—
平田 敦義

在学契約論の再検討—その意義と課題—

藤田 祐介

占領期における書教育の存廃論議について—「復活」過程におけるその展開と帰結—
柳林 信彦

米国 School-Based Managementにおける教育行政機関の役割に関する一考察
中村 裕

ネパールにおける近代学校制度の創設

鞍馬 裕美

ミシガン州立大学における教員養成プログラム改革の特質と課題

シャキル・ハサン・ラシド

How the Internet's Features Could be Used in Distance Education: Simulating face-to-face Interactions
齋藤 之誓

郷土地理教育における地理区教授論の展開—秋田県南秋田郡旭川尋常高等小学校を事例として—

第26集（2002年）

岩本 親憲

カウンセリング理論の哲学的基礎付け—その必要性に関するアメリカにおける議論を中心に—

平井 悠介

政治的参加と教育—J. Rawls の「分配的正義」論に対する Amy Gutmann の批判を中心に—

遠藤 宏美

「サポート校」における学校文化—「学校文化」なるものの特性解明の前提として—

篠崎 明子

学校外の学習成果の評価・認証システム・モデルの構築—準評価システムの導入—

和賀 崇

アメリカの大学におけるファカルティ・ディベロップメントの発展に関する一考察

—ティーチング・アシスタント制度の機能拡大に注目して—

吉中 麻樹

生活改善を目指したミャンマーにおけるライフスキル教育の展開

森下 剛

非行行動を予防する学校特性の検討

五十嵐哲也

高校生における性行動に関する研究—高校生が性交を行う動機と性知識を中心に—

熊田 穎介

明治期における小学校歴史科と教授内容の組織化—長野県東筑摩郡教育会の「歴史科節目」の分析を通して—
辻 宏子

数学学習における教授学的状況の構築に関する一考察—図形ソフト Cabri-Geometry の利用を事例として—

中村 泰輔

理科教育における物語性指向アプローチとその意味

第27集（2003年）

門脇 厚司

A Comparative Study of Educational Consciousness and Self-Appraisal of Teachers:

Based on a comparative survey of educational consciousness in Japan, Korea, and China

村田 翼夫

タイの教育行政における地方分権化の動向と課題—3県における実態調査を基にして—

古川 明子

ライシーアム運動における「教育委員会」構想—1830年代のマサチューセッツ州を中心に—

金子 知恵

神奈川県女子師範学校附属小学校におけるプロジェクト・メソッドの導入

—山崎博による運動会の実践を中心に—

松谷 曜廣

東亜同文書院への外務省留学生の派遣—1910-20年代の委託教育を中心に—

軽部 勝一郎

明治前期岩手県における仁恵学校の特質—県教育行政との関わりから—

茅野 公穂

学校数学における証明の機能としての「発見」に関する一考察

青山 和裕

数学教育的観点からの統計的な見方・考え方の検討—学校数学における統計教育の改善に向けて—

牧野 智彦

中学校数学における証明の役割に関する一考察—証明による理解促進に焦点を当てて—